

「神の前で豊かに」

ルカによる福音書

第12章 13節～21節

説教 岡村 恒牧師

「群衆の一人が言った。『先生、わたしにも遺産を分けてくれるように兄弟に言ってください。』」(13節)先生、ラビと呼ばれるユダヤ人の指導者は、様々な問題に対して答えを提供する人でした。主イエスをそういう先生の1人と思っていたかもしれません。この人にとって遺産相続問題は、最も重要な問題であったようです。

本来なら愛をもって互いに分け合って、豊かに生きて良いはずでした。問題は人間関係の破綻です。私たち自身の様々な課題にも、多くの場合その根底に破れがあります。人間関係の破れ、自分自身の破れ、また何よりも神様との関係の破れがあります。本当に根源的な問題が解決されなければ、たとえ遺産配分がなんとか穏当に終わったとしても、人間関係の破れは解決しないのです。主は群衆に向かってお答えになりました。あらゆる貪欲に対してよくよく考えなさい。たとえたくさん物を持っていても人の命は持ち物にはよらないのである。この人の課題、破れも、中心にあるものは貪欲であると主イエスは言われます。貪欲の語源はもっと多く持つと言う言葉です。

主イエスの口から答えられたのはたとえ話でした。ある金持ちの畑が豊作であった。この男は当惑し、語りかけました。私の作物をしまっておく所がない。彼の貪欲がここから明らかになります。私の倉を取り壊し、もっと大きいのを建て、そこに全部しまいこもう。そして自分の魂に言おう、魂よ、お前には何年分もの食料が蓄えてある。さあ安心せよ。食べ、飲め、楽しめ。日本語翻訳にはあまり出てきませんが、彼のこの言葉の中には、<私の>という言葉が連呼されます。自分の貪欲さに突き動かされる人が見ている世界は、自分の世界だけです。

私たちはどうでしょうか。礼拝の場集っていても、本当に私たちの心の目はそこで開かれているでしょうか。目の前の課題や、直面している悩み、痛みそれらを見無視することはできません。しかしそこに、<私の>という言葉がいつも付いていないでしょうか。主イエスは、あらゆる貪欲に対してよく警戒しなさいと言ってこのたとえを語られました。飽くことのない欲望は、私たちに尽きることがありません。富があれば、未来の時間さえも支配できると、この人は思い込んでいます。私たちは、この愚かな

金持ちの場所に自分自身をおいてみて、確かにそうだと思うされます。自分の命、自分の未来の時間までも自分自身が握り締めているかのように思い違いをしています。

「それから、イエスは弟子たちに言われた。『だから、言うておく。命のことで何を食うか、体のことで何を着ようかと思ひ悩むな。』」(12章22節)私たちが囚われ、縛られている世界から解き放ちます。あなたの命を創り、支配しておられるお方が、あなたに本当に欠けているところに必要なものを与え、あなたが求めない先から、あなたを養い育ててくださるではないか。「ただ、神の国を求めなさい。そうすれば、これらのものは加えて与えられる。」(12章31節)これが結論です。

主は言われます。あなたの魂、あなたの命は父のものだ。その命が失われることのないように私が来た。主イエスはそうおっしゃって、十字架にかけられました。私たちの命が滅び去ることのないように、代わりに主イエスご自身が苦しみを負い、痛みを負い、絶望を負ってくださいました。そして復活をして言われます、あなたの命はもう私のものだ、と。私たちに本当に命を与え、私たちの命が神のものであることを、主は宣言してくださいました。

「『愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる。お前が用意した物は、いったいだれのものになるのか』とされた。」(20節)遅かれ早かれ、この金持ちは死んで、神の前に立って、一切を失う事になるのです。このような愚かな歩みではなくて、本当の命を持って地上を歩み、死の眠りについてもお失われることのない真の命を握り締めて生きたら良い。聖書はそう私たちに招きます。

誰でも主イエス・キリストを救い主と信じる者は、神の前に富むものとして生き、立つことができます。主イエスは喘ぐ者を慰め、励まし、助けてくださいます。あなたの命は神のものだ。わたしが贖いとり、あなたに命を与えた。それは決して奪われることはない。この豊かな命をもって、あなたは神の前に立てば良い。聖書の明確な約束です。

(記 説教要約奉仕者)